

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	五城目町立五城目第一中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 21
学級数	4	3	3	0	10	
生徒数	103	104	112	0	319	

研究の概要

1 研究主題

<p>自ら課題を見つけ、解決できる力の育成 ～一人一人の学力を伸ばす指導方法の工夫～</p>
--

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・基本教科である数学，理科，英語は習熟の程度に差がつきやすい教科なので，2年生では数学と理科と英語で，3年生では数学と理科で，少人数指導やTTを実施し，個々の生徒の状況に応じた指導に取り組んでいる。 ・少人数指導やTTに取り組んでいる数学，理科，英語を窓口にするが，本校では，すべての教科において学力向上に向けて，学習指導の工夫改善を推進している。 ・今年度は国語，社会，数学，理科，英語の5教科について授業を公開し，学力向上フロンティアスクールとしての成果の普及を図った。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、解決できる力の育成 <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において，基礎・基本の確かな定着を目指した授業改善や学習指導を工夫することにより，自ら課題を見付け，解決できる力を育てることができのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <p>研究主題，研究計画の立案と実践</p> <p>フロンティア事業についての共通理解</p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導，TTの時数の拡大 ・選択教科における多様なコースの開設による習熟度に対応したきめ細かな指導
--------	--

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、解決できる力の育成 ～一人一人の学力を伸ばす指導方法の工夫～ <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を喚起するような導入を工夫することにより，個々の学習意欲が高まり，自ら課題を見付け，主体的に学習に取り組むのではないかな。 ・個々の学習状況に応じたきめ細かな支援を行うことにより，確実に知識や技能を身に付け，思考力・判断力や表現力を高め，課題を解決していく力がついていくのではないかな。 <p>研究の内容・方法</p> <p>前年度の実践の評価 （生徒，教師，保護者の側から多角的に）</p>
--------	--

実態調査による生徒の変容の把握
 より効果的な指導方法・指導体制の工夫改善
 （共通実践事項の設定 導入の工夫，きめ細かな支援の工夫）
 1年次，2年次の成果のまとめ
 （授業研究会やホームページ等による公開）

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ，解決できる力の育成 ～一人一人の学力を伸ばす指導方法の工夫～ <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の思いや考えを表現できる学習場面を工夫することにより，自ら考えを深め，主体的に学習に取り組むのではないか。 ・評価を工夫し，生徒の実態や変容を的確にとらえ，それを踏まえて共通実践事項に全校体制で取り組むことにより，基礎・基本が定着し，課題を解決していく力が付いていくのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <p>共通実践事項の更なる推進</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・きめ細かな支援の工夫 ・思考力・表現力を育てる場面の工夫 </td> </tr> </table> <p>生徒の学力に関する状況分析 3年間の成果と課題のまとめ，情報発信 （授業研究会や研究紀要，ホームページ等による公開） 継続的实践が可能な基盤整備 （フロンティア事業終了後も）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・きめ細かな支援の工夫 ・思考力・表現力を育てる場面の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・きめ細かな支援の工夫 ・思考力・表現力を育てる場面の工夫 		

(3) 研究推進体制

組織図	
研究推進委員会 (学力分析対策委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究，研修の計画立案作成と検討 ・研究会などの運営計画の立案 ・各組織との連絡調整 ・標準学力検査や学習状況調査の分析 ・全体の傾向や特徴，課題等の明確化
研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究，研修計画の原案立案 ・研究，研修の推進
全体研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での研修会 ・研究，研修にかかわる事項の協議
教科主任会	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科部会との連絡調整 ・各教科部会での問題点の掌握
各教科部会	<ul style="list-style-type: none"> ・各必修教科の研究推進 （年間指導計画，各教科の研究，指導案，授業改善，評価） ・各選択教科の研究推進 （年間指導計画，選択教科の運営） ・各教科に関する研究のまとめと次年度の計画作成
<ul style="list-style-type: none"> ・全体でフロンティア事業についての共通理解を図ったり，研究部と各教科部との連絡を密にしたりするために，今年度は全体研修会及び教科主任会を，研究部の下にきちんと位置付けた。 ・研究推進委員は，校長，教頭，研究主任（学習指導主任），道徳主任，特活主任，総合学習主任，情報教育主任とし，学力分析対策委員を兼ねる。 ・学力分析対策委員会では，県の学習状況調査を分析し，全体の傾向や特徴，課題を明確にする。各教科でさらに細かく分析し，通過率が高かったものについては効果的であった指導方法を，通過率が低かったものについては授業改善の具体的な方策を明らかにし，全校体制で学力向上に取り組んでいく。 	

1 研究成果

共通実践事項

- ・教科の壁を超え、全校体制で共通実践ができるように、あるいは、全職員で共通理解し、同じ土俵で研究に取り組むことができるように、「導入の工夫」と「きめ細かな支援の工夫」の2つを共通実践事項と定め、日々の授業に盛り込んできた。
- ・導入を工夫することにより、生徒に課題をしっかりとらせることができ、生徒の学習意欲の向上につなげることができた。さらに、授業の展開や終末でも新たな課題が見つかるなど、主体的な学習や課題解決的な学習に結び付けることができた。

理科（2年）

電源がないのに電球に明かりがつく現象を演示実験し、「コイルをつないだ電球がなぜつくのか」を考えさせる。

英語（2年）

生徒がgive+人+物の意味と語順を予想できるように、例文を工夫したり、教師が演示したりする。（Santa Claus gives children presents. Momotaro gives a monkey a kibidango. 等）

- ・少人数指導やTTをはじめ、個々の生徒に対応したきめ細かな支援の工夫により、生徒が「分からないことが分かった」「できないことができるようになった」「勉強が楽しい」と実感できるような授業実践につながった。

数学（2年）

習熟の程度に配慮したグループを編成し、そのグループに合った操作活動を準備することにより、多様な考えを引き出し、互いに認め合い、磨き合えるよう支援する。

- コースごとに、
- ・時間をかけて確実に求めてみるよう支援する。
 - ・模型で演示するなど、具体物を使って気付かせる。
 - ・できるだけ自由な発想、取り組みを優先させる。

- ・学習指導案では、導入の工夫を□□（二重線）で囲み、きめ細かな支援の工夫には○（二重丸）を付け、形式を揃えることにした。なお、指導案を見ただけでも授業の流れが分かるように、本時の計画はできるだけ具体的に詳しく書くことにした。

TTI作戦

- ・本校では、楽しく分かりやすい授業づくりをめざして、TTI作戦（私の創意工夫点）に全校体制で取り組んでいる。一人の教師が、一つの学期に、一つの創意を（Teacher Term Idea）ということで、TTI作戦と名付けている。すべての教師がそれぞれの教科の単元や題材にとらわれず、全教科で共有化できるような創意工夫点を出し合っている。

社会（1年）

- ・授業の終わりに5分を利用して問題づくりをし、その問題を単元の終わりに、難易度に応じて種類分けし、ステップアップ方式で習熟度別学習を実施する。

基礎的コース

発展的コース

物知りコース

先生からのヒント、アドバイス

問題作成者のヒントカード

英語（2年）

（会話スピードトレーニング）

- ・会話パターン表を生徒に与え、始業チャイムと同時に席が隣どおしのペアで、質問と返事の役割分担をして練習を始める。2、3分程度の練習で、パターン表の

- 何番までできたかを記録する。1か月ほどでパターン表を替える。
 (音読指導における工夫)
- ・1学級に2人の教師が入って指導する際、音読能力の上位・下位で2グループに分け、別々の教室で指導する。普段はできない上位生徒への「高速読み」や下位生徒への「繰り返し読み」を行うことができる。

数学(3年)

- ・単元末問題を解くときに、習熟度別学習を実施する。
- ・次の3つのコースに分かれて、問題を解く。

{	自分一人で調べて解決	ばりばりコース(深化・発展)
	友達と協力して解決	がんばりコース(活用・習熟)
	先生のアドバイスを受けて解決	じっくりコース(補充・回復)

授業づくり協力者

- ・近隣の中学校から各教科(国語, 社会, 数学, 理科, 英語)2名ずつ, 授業づくり協力者をお願いした。授業についての検討会などを通して, 各教科の研究や実践に多大なご協力をいただいた。研究成果の普及にも効果的であった。

学習の意欲等に関するアンケート(全校生徒対象)

ア 全校生徒を対象にした集計結果から

	7月実施	12月実施
学校が好きだ	69.1%	69.3%
勉強がきらいだ	60.2%	52.5%
勉強は大切だ	87.9%	88.6%
学校の勉強が分からない	33.4%	24.4%

イ 少人数指導やTTによる指導を受けている生徒を対象にした集計結果から

	7月実施	12月実施
数学が好きだ(2年生)	67.0%	70.9%
数学が好きだ(3年生)	49.1%	58.6%
理科が好きだ(2年生)	86.4%	74.8%
理科が好きだ(3年生)	70.9%	77.5%
英語が好きだ(2年生)	25.2%	36.9%

- ・7月に実施したアンケートから, 69%の生徒が「学校が好きだ」と答えているものの, 60%は「勉強がきらいだ」と答えている。また, 88%の生徒が「勉強は大切だ」と考えているものの, 33%は「勉強が分からない」と悩んでいることが確認されたが, 12月実施の集計結果からは, いずれも好ましい方向に変容していることが分かった。特に3年生の「勉強が分からない」が, 43%から24%に激減している。
- ・少人数指導やTTによる指導を受けている生徒が, 数学, 理科, 英語の教科を「好き」と答えている割合は, 平均4%の増加である。その理由として, 「楽しい」「分かりやすい」「得意」という気持ちを答えている生徒が多かった。理科の2年生の割合が減少しているのは, 生徒が最も苦手としている電流の領域を学習した後にアンケートをとったことが原因と考えられるが, それでも75%もの生徒が「好き」と答えている。

2 今後の課題

研究の今後の課題

- ・習熟度に合わせてきめ細かく支援していくにはどんな方法があるか, 工夫の余地がある。
- ・基礎的・基本的な事項の定着は図られてきているが, 思考力や表現力の深まりに結び付いていない。
- ・授業時の評価を, 本時・次時・次単元・次年度に生かしていく仕組みを系統立てなければならない。コースに分かれて学習するときの評価について, TTの担当者同士でまだ十分に共通理解が図られていなかったり, コースごとの評価の場面にずれが生じたりしている。
- 次年度の研究の方向性
- ・今まで実践してきたことを, 客観的データを用いたり図式化したりして, 分か

りやすいものにして確認する。また、生徒がどう変わったか、その成果を検証する。

- ・生徒の実態を踏まえ、問題点として確認されている課題や、定着が不十分な点などを取り上げる。
- ・5教科以外の教科等においても授業研究会を行ったり、共通実践事項をさらに推進したりするなど、全校体制で今までの取り組みを一層深めていく。

学力把握のための学校としての取組

N R T等の標準学力検査や、県の学習状況調査などをもとに、前年度との比較から生徒の学力の変容を把握する。

- ・標準学力検査（1・2年生は5月実施，3年生は4月実施）
- ・学習状況調査（7月実施）
- ・学習の意欲等に関するアンケートを定期的実施し、その集計結果から生徒の実態を把握する。
- ・学習の意欲等に関するアンケート（3回実施，5月・7月・12月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業研究会の開催

- ・平成15年11月14日（13:30～17:00）
- ・国語，社会，数学，理科，英語の5教科の授業を公開
- ・県内学力向上フロンティア校，郡内中学校，町内小・高等学校などの先生方から，研究授業や研究協議会へ参加していただき，本校の実践研究の成果の普及を図った。

授業づくり協力者の委嘱

- ・近隣校から各教科2名ずつ
- ・公開授業研究会当日の司会者及び記録者を兼任
- ・確かな学力の向上に迫る授業についての検討や協議を行うなど，実践研究に協力をいただいた。また，授業づくり協力者の先生方が自校に持ち帰って実践できるような内容・方策について，アイデアを出し合った。

ホームページの活用

- ・<http://homepage3.nifty.com/hirogano/>
- ・本校のホームページや，秋田県教育庁義務教育課「特色ある学校づくりデータベース」を利用して，今年度の研究テーマ，研究内容，学力向上対策，指導方法の工夫改善点など，その取り組みや実践研究の成果について広く紹介している。

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 b 1 4 年度からの継続校

【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 b 1 0 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 5 学級 1 6 学級以上

【指導体制】 b 少人数指導 b T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 b 国語 b 社会 b 数学 b 理科
 b 外国語 b 音楽 b 美術 b 技術・家庭
 b 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 b 有 無